

Course number	U-LAS70 10001 SJ50				
Course title (and course title in English)	ILASセミナー : 教育格差を考える ILAS Seminar : Introduction to educational inequality	Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Education Professor, OKABE TAKESHI		
Group	Seminars in Liberal Arts and Sciences	Number of credits	2	Number of weekly time blocks	1
Class style	seminar (Face-to-face course)	Year/semesters	2024・First semester	Quota (Freshman)	15 (15)
Target year	Mainly 1st year students	Eligible students	For all majors	Days and periods	Wed.5
Classroom	Seminar room 5, Research Bldg. No 2 (Main Campus)			Language of instruction	Japanese
Keyword	教育格差 / 社会学 / 教育社会学				
[Overview and purpose of the course]					
<p>本人が変えることのできない「生まれ」（出身家庭の経済状況、保護者の職業、居住地域、ジェンダー、エスニシティなど）によって、その人の学力や学歴など、広義の教育に関する格差が生まれることが、知られています。これを「教育格差」と呼びます。本セミナーでは、教育格差を切り口に、教育と社会との関わり方、学校が教育格差に与える影響、教育格差という観点でみたときの教師や保護者のあり方、ジェンダーやエスニシティが教育格差とどのような関係にあるのか、などについて学びます。また、教育格差の観点から、非行や不登校、いじめなどの教育問題についての理解を深めてもらいます。</p> <p>履修者のみなさんには、毎回の授業前に、教科書（『現場で使える教育社会学 教職のための「教育格差」入門』）の該当章を読んだうえで、疑問点や考えたことを準備してきてもらいます。授業では、教科書の内容を簡単に確認した上で、疑問点の共有や意見交換を中心に進めます。</p> <p>履修にあたっての予備知識は特に不要ですが、「在学中に、社会学・教育社会学・教育学に関連する研究（卒論執筆等）をしたい」という方には、ぜひ積極的に履修してほしいと考えます。また、そのような研究分野の研究者を志望している方も、ウェルカムです。</p>					
[Course objectives]					
<ul style="list-style-type: none"> ・教育格差に関する社会的な概念や理論について理解する。 ・教育と社会の関係について、データに基づいて論じることができる。 					
[Course schedule and contents]					
<p>第01回 ガイダンス</p> <p>第02回 教科書第1章（教育は社会の中で行われている）及び第2章（教育内容・方法は社会と深く関わっている）</p> <p>第03回 教科書第3章（教育は階層社会の現実から切り離せない）及び第5章（制度が隔離する高校生活）</p> <p>第04回 教科書第4章（「平等」なはずの義務教育にも学校間格差がある）</p> <p>第05回 教科書第6章（教師は社会的存在である）</p> <p>第06回 教科書第7章（保護者・子どもの言動の背後にあるものを見据える）</p> <p>第07回 教科書第8章（教師はどのように生徒と関わってきたのか）</p> <p>第08回 教科書第9章（非行は学校教育と密接に結びついている）</p> <p>第09回 教科書第10章（進路が実質的に意味する生徒の未来）</p>					
Continue to ILASセミナー : 教育格差を考える(2)					

ILASセミナー：教育格差を考える(2)

- 第10回 教科書第11章（「性別」で子どもの可能性を制限しないために）
- 第11回 教科書第12章（日本の学校も多文化社会の中にある）
- 第12回 教科書第13章（特別活動と部活動に忍びよる格差）
- 第13回 教科書第14章（不登校・いじめは「心の問題」なのか）
- 第14回 教科書第15章（「現場」のために教師が社会調査を学ぶ）
- 第15回 まとめとフィードバック

[Course requirements]

None

[Evaluation methods and policy]

授業終了後に毎回ミニツレポート（感想、疑問、コメントなど）を提出してもらいます。評価は、授業中の討論への積極的参加の度合い（20%）、ミニツレポート（80%）により評価します。ミニツレポートは、到達目標の達成度に基づき評価します。

[Textbooks]

中村高康・松岡亮二編 『現場で使える教育社会学 教職のための「教育格差」入門』（ミネルヴァ書房、2021年）ISBN:9784623092604

[References, etc.]

（References, etc.）

岡邊健編 『犯罪・非行からの離脱（デジスタンス）』（ちとせプレス、2021年）ISBN:9784908736230

岡邊健編 『犯罪・非行の社会学 常識をとらえなおす視座 [補訂版]』（有斐閣、2020年）ISBN:9784641184534

上記のほか、教科書各章の「文献紹介」欄を参考にしてください。

[Study outside of class (preparation and review)]

毎回の授業前に、教科書の指定された章を読んだうえで、疑問点や考えたことを準備してきてもらいます。これらを毎回行なう自信のない方は、履修できません。

[Other information (office hours, etc.)]

授業中は、講師や他の履修生とのディスカッションを行いますので、積極的・能動的に参加することを期待します。